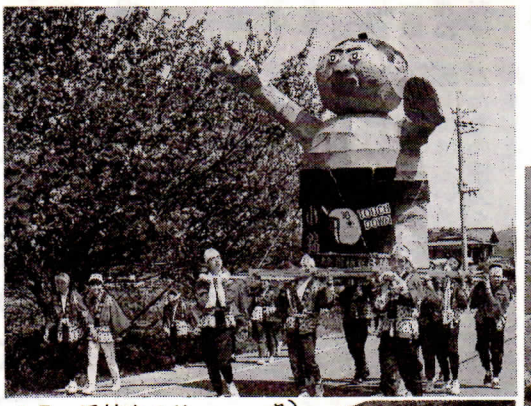
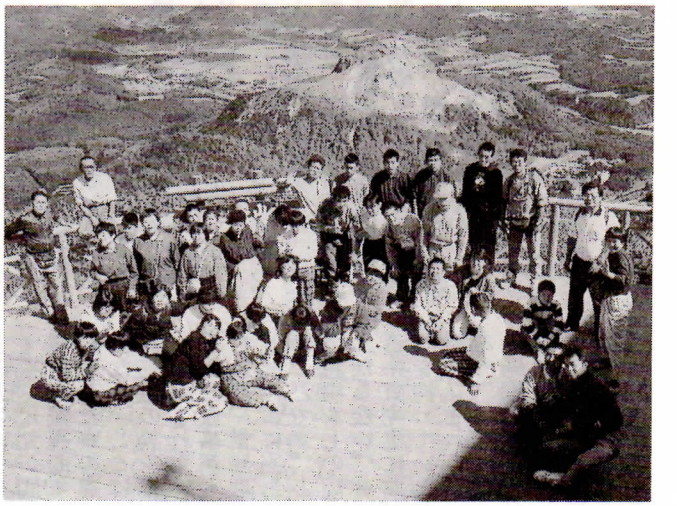
おちほ

第18号　平成4年11月22日　発行　社会福祉法人　椎の木会　**落　穂　寮**　発行者　山下　陽一

落穂寮の たのしい行事紹介！



5月　氏神まつり



9月　年長児旅行（北海道方面）

8月　臨海学舎（小浜市田島）

10月　親子合同運動会

11月　年少児バス旅行（神戸方面）

吉田ナミ先生と椎の木会

理事長　増田正司

落穂寮の誕生日は昭和二十五年ですが、経営母体の椎の木会はそれより早く二十二年夏ごろ発足しています。初めは近江学園の物心両面の後援を活動目的にして動き始めました。糸賀一雄先生ご縁の各界の士が会員に名を連ねていました。吉田ナミ先生もそのお一人でした。

近江学園重度クラスさくら組の将来を考え、新しい施設をぜひ県立県営でつくってほしいと県庁関係各課と折衝を続けられた糸賀先生の熱願は受け入れられませんでした。苦々しい思い、不愉快さで一杯でたまらなかったことでしょう。帰途、町中で吉田ナミ先生とばったり出会われたそうです。先生の顔色を案じて声をかけ、ことの経緯を伝えられたことが、椎の木会が落穂寮の経営母体として転進し、糸賀先生の熱願にほだされ初代会長をひきうける羽目になったと聞いています。

近江学園で発生した新たな問題、重度の人たちの幸せづくりの仕事に踏み込むことになった椎の木会は、当時社団法人になっていましたが、新しい施設運営に使える財産を何も持っていません。

吉田先生は落穂寮に入る子どもたちの話を糸賀先生から聞かされた時、これは自分たち母親の問題ではないか、自分の子どもだけではなく、誰の子どものことを考える母親になりたい。自分は落穂寮の子どもたちに涙を流し、県下のお母さんがこの子どもたちに涙を流してほしいと念願しよう、おかあさんたちの協力をお願いしようと決心されました。

当時、ピースという名のたばこが一箱三十円でした。朝晩一本節約して一月二百円を落穂寮の子どもたちへというキャンペーンを開し、先生ご縁の県下の婦人層に呼びかけ後援会員をふやしていかれた。最盛期一、五〇〇人を数えるほどでした。

島根県の厳しい自然の山村で育ち、長じて日本女子大で薫陶をうけ、天性の資質が磨かれ、草津市吉田の代々の名家に嫁ぎ、医師のご主人を助け今日の吉田医院の基礎をつくられた。また、その趣味や学識、婦人活動、司法・福祉活動等、幅広い人との交流がたくさんの椎の木会員を増やしていきました。人情味と情熱と宗教心一杯の真心の呼びかけにたくさんの人たちが感動したことでしょう。

生みの苦しみを経て、親元近江学園から独立したといっても、すべて無いづくしの寮生活のやりくりが続いていった。土地・建物の購入の借金返済と、近江学園蓄産部事業への資金援助も継承するという財政負担が、寮運営上に支障を来たした。声を親元に伝えたいが遠慮でできない。寮長の斉藤ちか先生は現場職員の苛立ちを糸賀先生に伝えたいが、どうも躊躇が先に立ってしまう。

話を聞いた吉田先生即行動を開始。糸賀先生に申し入れ、近江学園は寮の運営から手を引き干渉しないようにと。

糸賀先生は後に施設を次々つくっていかれたが、そうした構想実現の経営拠点を椎の木会におく思いがあったのだろう。

吉田先生には当時そのことを理解できても、足元が固まっていない落穂寮の現状を無視しての飛躍は、糸賀先生と約束した寮の運営責任を果せないことになる。ここはわが身悪者になって糸賀先生の論を拒むしかなかったと、後日述懐されていた。

寮内人事がもめ、高齢の寮長は急病で入院、常務理事職にあった吉田先生が前後策に当られた、昭和三十二年春のことです。とりあえずの間に合わせで急場をしのいでも、根本的な解決策にならない。ここは寮の生みの親である糸賀先生にお願いすることが最善と話を持っていかれた。持っていく方も持ち込まれた方もどんな案配だっただろう。幹部職員の退職した後釜にと糸賀先生から急便が小生に届いた。近江学園から派遣され、横浜の施設の再建がどうやら軌道にのり、経営者や県庁主管課から評価され、赴任を恨んでいた家族も横浜の生活を楽しむまでになっていた。しかし公私ともにお世話になった先生のお願いなれば、何はさておいてもと、親元に帰る懐かしさも手伝い、後ろ髪を引かれる想いも残しながらの出立だった。

急場の助け船と僕に高慢な想いが面上に現われていたのか、歓迎の役員会の席上で、吉田先生から「施設運営に勝手なまねはさせないぞ、いか増田、私ら役員会があることを肝に銘しとけ」と、きつく申し渡された。心中穏やかでない思いがはしる、奥村理事がとりなすように割込んで気分転換したことを思い出す。

落穂寮再建に奮闘する日々は楽しく、充実していた。

公私ともに打ち解けてお話できるようになったのは、十年ぐらいたってからだ。ずいぶん気ままなことを言って怒られたこともある。

創立三十周年記念式にはお孫さんに押された車椅子にのられて登壇していただき、長年運営にお世話いただいた謝意を会場の参列者の拍手で現わすことができたことは、せめてもの幸せであった。

司法と福祉に貢献された功績で叙勲の栄誉をうけられたとき、下手な写真を撮らしていただいたが、とても喜んでいただいたことが忘れられない。百才まで生きると宣言しておられたが、九十才を過ぎてから病にたおれられ亡くなられた。

自分の身内以上のおつきあいをしていただいた思い出がつぎつぎにうかんでくる。遙か彼方に逝かれたのに今も身近に現われてくる。

（九二、十一、一〇）

あんどんのため息

落穂寮長　山下陽一

落穂寮長を命ぜられて半年が過ぎてしまいました。本当のところまだ施設長を務めることの恐さも、醍醐味も実感できていません。

最近の映画にJ・F・Kというのがありました。この映画は、今から約三十年前にアメリカのケネディー大統領がダグラスで暗殺されたその謎に迫ったものですが、この若いケネディーが大統領に就任した時の演説の中で「もはや古き松明（たいまつ）は新しい松明に引き継がれた」とアメリカ市民に宣言したのですが、私の場合はどんなあんばいだろうと考えます。

先々代の寮長増田先生は、糸賀先生の直接の薫陶を受けられ、全国的にも「この人あり」と知られた方なのです。先生が青年時代から情熱を注ぎ込まれた知恵おくれの子どもの施設のたどった道は、今日充実が進みつつあるいろいろな障害を持った人達の福祉の道標（みちしるべ）となっているのです。その業績は多方面から高い評価を受けておられるもので、その人々とのつながりは幅広く、その層は厚いものであります。

前寮長の池谷先生は、三十数年に渡って寮の子ども達の指導にあたってこられました。特に造形指導を通して、この子ども達のオリジナルな世界ともいうべき、牧歌的な、または現代の私達がずいぶん昔に置き忘れたものを思い起こさせるような、そんな作品作りを指導され、その指導の観点、指導方法に影響を受けた人は広範囲に渡っています。見る人を思わず吹き出させるような寮生達の作品群は様々な気持ちの人達を慰めることでしょう。

さて、わたしはそのおふた方の後に続きました。なんともはやたよりないものだと思います。先程のケネディーの松明は新しい松明に引継がれたのですが、私の場合は、新しい松明などおこがましく、勢い盛んに燃える松明が行灯（あんどん）に移されてしまったのではないかと気がかりな事です。

今のわたしは、テーマ音楽とともににこやかに語りかけてくるテレビ画面のニュースキャスターと同じようなものではないかと思っています。順に沿ってなめらかに語りかけるその周囲には、画面には写し出されていない様々な役割を担当しているスタッフのチームワークで支えられていてはじめて仕事が円滑に進みます。このあたりを充分ご理解いただき「あんどん施設長」にご協力とご支援をお願いいたします。

さて、世間の流れが直接に伝りにくい福祉の現場にも一般社会の不況な情勢を実感しています。以前ならば不況こそ福祉人材の確保のチャンスだといわれていましたが、少し様相が違ってきているのではないかと思います。私達の「業界紙」によりますと、四施設に一施設は職員が欠員の状態で運営されているそうです。多数の大学で福祉学部、福祉学科は増設されているにもかかわらず、専門の教育を受けた人々が福祉の仕事に魅力を感じていないらしく、それを希望する人の数と、必要とする数、すなわち需要と供給にアンバランスがあるのです。私達の職場について「きつい」「やすい」「やすめない」などといって、建設業界の三Kの類似版を試みている人がありますが、たしかに福祉の仕事は人材確保だけでもたいへんなことになりそうな様子です。

視点を落穂寮に移しますと、欠員状態はごたぶんにもれません。こんな状態で寮生達の指導をしているものですから、寮生達に対しても影響が出てくるかも知れません。充分に肉体的に精神的にも余裕がある時ばかりではありませんので、にっこり笑って指導してやるといい時でもその笑顔をすでに使いきってしまった人がいるかも知れません。そんな職員を見たとき、皆さんはぜひ、にっこりと笑ってやって、仕事を手伝ってやって下さい。人不足に疲れ、笑顔を使いきってしまったスタッフには何よりも増してのはげましになることですから。

楽しい旅行

年長組、北海道に遊ぶ！

副寮長　中嶋　貴一郎

寮の年長組は、七年前から、毎年、秋に一泊か二泊の旅行を実施して来ました。今年は、寮生に一度北海道の大地を見せてあげたいという職員全員の願いもあって、思い切って、北海道旅行を計画してみました。

九月十六日から十八日までの三日間の予定を、早い時期に立てましたが、何分にも、総勢五十名近い人数を、三日間有意義に旅行するためには、万全の計画と準備が必要で、昨年は旅行を中止して、二年間をかけて準備をして来ました。

九月十六日の朝、みんなの祈りが通じたのか、朝から天気良好、全員至って健康、心配した台風もどこかへ行ってしまったようです。さあ、出発、三日間の安全と無事を祈りつつ、少々の不安を抱きながらバスに乗り込みました。寮生は普段と変わらない顔をしながら、それでいて心浮き浮きするものがあるのか、非常に嬉しそうな顔をしていました。

今回一番心配したことの一つに飛行機に乗ることがありました。寮生の半数以上が飛行機に乗った経験があるとは言え、一時間半の間、静かに乗っていてくれるか心配でした。ところが、てこづったのは以外にも危険物防止ゲートの通過でした。思わず立ち止まって進まない者、二人いっぺんに通って係官に注意される者、職員が寮生の手をつないで通過した途端にブザーが鳴って係官を困らせたりと、思わず苦笑してしまいました。思った以上に時間がかかってしまいました。

九月十七日朝から快晴、今回の北海道旅行の超目玉、一日牧場で過ごす事にしていただけに、天気は気になっていましたが、快晴で何よりでした。

寮生は一日ハイジ牧場で芋堀をしたり、乗物に乗ったりと、小グループに別れてそれぞれに楽しんだようです。ただ、少し寒かったせいかお漏らしするものが出たりで、のんびりしたり、慌てたりの一日でした。

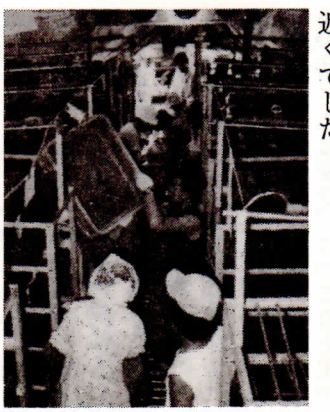
九月十八日特に快晴、今年、三日間を通して快晴と言うのは、珍しいそうで、余程精進が良かったのかなあと思ったりして喜んだ次第です。この日は一日ハードスケジュールでバスで走り回りまあした。しかし、寮生は快晴に快くしているのか、景色の良さに堪能しているのか、非常に御機嫌で一安心でした。

帰りの飛行機の中で一人、大をお漏らしするものがいて、職員を困らせた者がいましたが、三日間を通して、特に困ったこともなく、全員が無事に旅行を終えたことは、何よりも有り難いことでした。

寮に帰りついたのは午後十一時近くでした。

杉山〝しいたけ〟だより

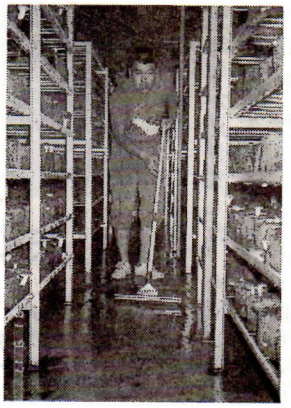
杉山の家　山根　孝之



平成二年度から、この地での冬場の作業に、しいたけのハウス栽培はどうかということで話が始まり、平成三年五月には工事に着工、翌月の六月十八日にはホダ木六千本がハウスに入った。以降、他のハウスや、組合、カネボウ食品にアドバイスを頂きながら、安定した収量を確保し作業の充実を計る為、皆で頑張ってきた。

平成四年十月現在、寮生五名、ホームの人二名が直接ハウス作業

♪ハウス内作業風景♪



に関わっている。作業内容は、朝夕のつみ取り、カゴ持ち、ハウスの清掃、ホダ木そろえ、毎夜散水後の水かき、出荷用箱の組立、箱底用の新聞切り、出荷箱づめ、袋づめ、毎日の収量計算などである。

大方の流れも出来、寮生もそれに従って職員の指示が無くても作業出来るようになってきた。これからも皆で頑張っていきたい。

老人クラブ奉仕作業！

もう足掛け九年になろうかと思いますが、一週間に一度奉仕作業に来ていただいています。畑作業、座布団のつくろい等をしていただいています。昼はみんなといっしょに食堂で食べてもらってます。

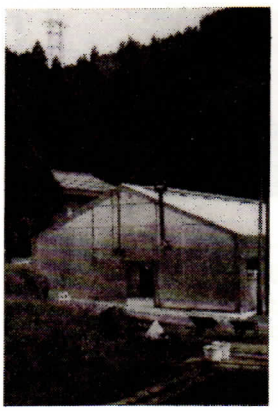
寮内の各行事にもかかさず来ていただいています。これからも、奉仕作業、寮内行事に末長くきていただきたいと職員、寮児ともども願っております。

杉山ホーム・しいのきホームのこと！

平成元年十月に今津町杉山の民家を購入し、翌年四月より落穂寮の杉山の家ということで生活をはじめ、平成三年四月よりグループホームとして認定をうけた杉山ホーム。早、一年半がすぎました。四名からスタートした杉山ホームでうち三名は今津町南新保の特別養護老人ホーム清風荘へ掃除等の仕事で毎日バス通勤、もう一人は杉山の家の人たちとしいたけハウスの作業等を手伝っています。ホーム生の人たちは、はじめの頃バスに乗っても乗りすぎたり、お金が出せなかったり、いろんなことがあったようですが、いまでは清風荘職員の方々の協力、キーパー小沢育子さんの指導があって三名は遅れたり、休んだりすることもなく元気に通っています。生活そのものが安定しつつあるようになってきています。一方、しいのきホームは昨年まで、生活ホーム・椎の木ホームということで三名の男の人ばかりで各々の仕事場へ通っていたのですが、この四月よりこちらもグループホームとして認定され四名よりスタートしました。うち一人は寮の年長の人たちといっしょに作業を手伝っています。そして先月の一日付で女の子が一名、しいのきホームに入居し、石部の会社に勤めています。先の三名は各々の職場で十五年以上にもなっていたのですがうち一名の会社（工場）が閉鎖になり、これからどうしようかと考え悩んでいます。ただホームに入居しているおかげで、住む所と食べることについてはすぐには困らないのですが……。

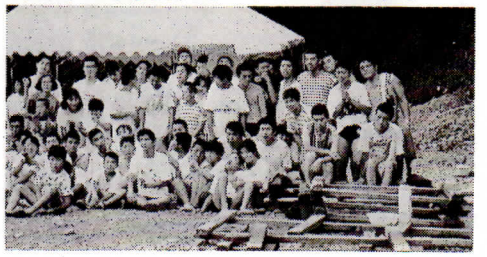
各々のホームにとっての目下の懸案事として、住居のことがあります。各々五～六人の人たちが住める住いを建てたいと考えているのですが…。良い考えあれば一報いただければ有難いです。

今後とも両ホームへのご支援ご協力の程、どうぞよろしくお願いします。



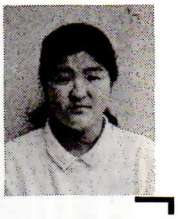
紹介します。

平成４年度採用の人たちです。――



「はじめまして」

A棟保母　山本　彩路



昨年の春におちほに来て、一年と半年が過ぎました。今回、この言葉を使うのは少しおかしいような気もしましたが、やっぱりもう一度改めて〝はじめまして〟。名前の方は、〝あやじ〟と読みます。この、他にはない名前にはこれまでにもいろいろありましたが、昨年の四月、おちほに来てまだ三日とたっていない時、まわりの人の顔も名前もほとんどわからない時に、指導員さんに「彩路さんか。おやじさんみたいな名前やなぁ。」と、大きな声で言われてしまったことは忘れられません。決して、おやじではありませんので…。

出身は、京都の一応市内の北区です。北の方なので市内と言っても家が京都タワーと同じ高さの所にあり、市街の夜景が一望でき、大文字山が真っ正面に見えます。緑がまだ残っており、古い家並もあり、環境もなかなか良いのですが、ここはそれ以上に自然がいっぱいで、四季を感じられる所だとつくづく思っています。それを子どもと一緒に感じることができるというのも、素敵なことだと思っています。

子どもと一緒に生活していると当然のことながら、ひとつひとつのことが一筋縄ではいきませんが、やはり、あの笑顔に接していけるということは、何事にも勝ると思っています。その笑顔が少しでも多く見られるように、これからも子ども達との関わりを大切にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

「今思う事」

A棟保母　中村　加代子

落穂寮に就職し、二年目を迎えております。といっても棟が違うのでとても新鮮な気持ちです。現在所属しているA棟は、これから心身共に成長し、変わっていくと思われる寮生がいっぱいです。昨年はB棟だったのですが、背の高い寮生が多いため、よく上をむいていました。また、年齢的に同じぐらいか、少し上の寮生が多いため、時間の共有ができた様な気がします。

個性的な寮生に囲まれていそがしく過ごしています。が、どんな小さな事でも、共に、喜こんだり、感じとっていったりしていきたいです。あの時、こうしておいたら、ああしておいたらと、思うことが多々ありますが、精一杯寮生に負けないファイトでがんばっていきたいと思います。

落穂寮も児童施設から成人施設へと変わっていくのですが、私も成長し変わっていけたらと思います。これからも色々な失敗や、御迷惑をおかけするのではないかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

「こんにちは」

B棟保母　野村　千春

私は、野村千春と言います。出身は、あの温泉で有名な大分県別府市です。

落穂寮に就職して、二年目となり、また昨年と同じくB棟所属ということもありだいぶ慣れてきたように思います。でも昨年より職員の人数も少なく毎日が大変ですが、寮生のみんなの顔を見てるとつかれもふっ飛びそうなくらいになります。B棟は成人の棟ですが児童とはちがった面でのかわいさが、昨年よりもたくさん見られるようになりました。

これからもまだまだ勉強することがたくさんありますが頑張っていこうと思っています。

よろしくお願いします。

新任職員

――「遅れましたが平成3年度、

「わたし」

事務　伊藤　陽子

しかし落穂寮に入ってすでにもう一年半以上たつというのに、落穂に『おちほ』なんて機関紙がちゃんとあっただなんて！何も知らなかった。やはり一年半くらいのものではまだまだわかったとは言えませんね。この落穂寮というところは……。叩けば不思議なほこりが沢山でてきそうな妙な職場です。

あ、遅ればせながら自己紹介させて頂きます。私、去年（一九九一年）五月一日付で採用して頂きました伊藤陽子と申します。入った後色々紆余曲折がありまして、今は何故か、お金や向いの恵美さん、おまけに橋本先生等々を相手に日々奮闘しております。

まったく、およそ数字、計算とは無縁のこの私に、出納事務などさせる落穂も落穂だが、やってる私も私だよ！と鼻歌なぞ歌いながら、いろんな伝票を書きなぐり、コンピューターのキーを叩きまくって前代未聞の決算を無事通過したという去年度の輝やかしい実績を楯に、今年もまたはりきって行こー！と半分ヤケで思っています。

自他共に認めるガリでタフな肉体、図々しい性格を武器に寮生さんに負けないような明るさも真似れるようになりたいと願っています。

「自分をみつめて」

事務　後藤　恵美

落穂へ来て、あっと言う間に一年が過ぎました。来た当初は建物全体がよそよそしく、圧迫感がありましたが、今ではすっかり慣じみ、自分の家の様にリラックスできる程になりました。（リラックスしすぎという声もありますが）職場には緊張感やけじめも大切ですが、リラックスしながら仕事ができるという事も必要だと思います。

私が福祉施設で働こうと思ったのは、せっかく人として生まれて来たのだから人間に注目し、人との関わりや心のつながりを大切にしていきたいと思ったからです。私は事務員なので、ほとんど事務室にいて寮生さんと接する機会も少ないのですが、寮の行事等で一緒に参加する時はどうしても言葉に頼ってしまいがちです。言葉を持たない寮生さんが一生懸命意思を伝えようとしていても、自分の勝手な判断で相手の気持ちを捕え自己満足に終わっている事も多くあると思います。人の心を本当に理解し、自分の事として受けとめるのはとても難しい事だと、今感じています。

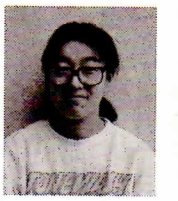
これからもいろいろと悩み失敗し、後悔する事もあると思いますが、良い意味での気を使い、肩の力を抜き、余裕を持って臨みたいと思います。口だけは達者な私ですが、どうぞよろしくお願いします。

「ご迷惑！」

杉山の家保母　西堀　和美

今年、平成四年度からお世話になります西堀和美という者です。

現在、今津町の「杉山の家」という所にいます。杉山はきれいな所です。私は今まで薄青緑色の東山魁夷の絵はウソだと思っていました。しかしここへ来て初めてそんな色の風景がある事を知りました。長い学生時代を終えて初めて就職し、私は今、沢山の「初めて」を経験させて頂いています。慣れない事だらけの上、不器用者の為、沢山の皆様に沢山のご迷惑をお掛けしています。本当に申し訳なく思っています。これからも沢山のご迷惑をお掛けする事になると思います。しかしその「ご迷惑」を少しづつでも減らしていけるように頑張っていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。



「自己紹介」

A棟保母
滝沢　詩乃

今年の春、短大を卒業し、念願の施設保母としてお世話になることになりました。滝沢詩乃です。

なぜ、私が施設保母になりたかったのかと言うと、笑われてしまうかもしれませんが、学生時代、実習ではなく、見学で精薄者施設（者といってもほとんど二十才前後）に行った時、これだ！と思ったのです。保育園（所）、幼稚園よりやりがいがある、自分に合っていると思ったからです。

初めは、実習もせず、見学した時接しただけだったので不安もありましたが、落穂の子ども、寮生さんたちは、私の不安を出させないでくれました。

半年たち、この間、私自身にたくさんの壁がぶちあたってきました。一直線しか見えなかった事が時がたつにつれて他の事にも目を向けていくことが出来るようになってきたように思います。又、先生方にいろいろと教わり、励ましていただいてここまでくることができたように思います。

私は今、目標にしている事があります。それは、一人前の保母になることです。まだまだ実習生並で、先生方にご迷惑をおかけしています。又、私はすぐ大きな声が出てしまうのですが、大きな声を出さなくても、目と目で通じ合えるような、そんな保母になりたいと思っています。

これから先も、いろいろな事があるだろうと思いますが、がんばっていきたいと思います。

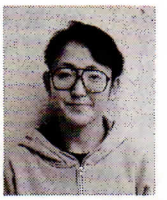
「おもうこと…」

C棟保母
小園　まり

介護福祉士の専門学校を卒業してから、特別養護老人ホームで働いていました。たった一年間という短い期間の中でしたが、お世話をさせてもらっていたおじいちゃん、おばあちゃんとの楽しい日々は、ふっと今も思い出してしまいます。主に、寮母の仕事として、食事・排泄・入浴・レクリエーションなどを行ってきました。レクリエーションについては、老人体操という音楽にのって体を動かすリズム体操を行ったり、カラオケをしたり、風船バレーをしたり…と毎日午後に時間を設けてがんばっていました。

こちらでは、今年の春から皆さんと共に生活をすることになりましたが、夏があっという間に過ぎて、月日の立つ早さに驚いてしまいます。毎日、共に寮生と暮らしていると自分の中で何かしら発見することがあって、パタパタと忙しいけれども、それなりに落ち着いて充実した日々を送っています。

これからもいろいろと迷惑をかけると思いますがどうぞよろしくお願いします。



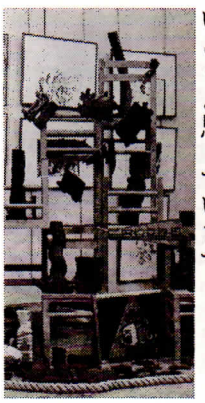
「私のキーポイント」

C棟保母
西村　明子

この落穂寮で働き始めて半年が経ちました。忙しさにまかせて流れるように月日が過ぎていきました。ただ目の前にあることばかりに日々追われて、寮生さんの心深くあるものを見つめていかなければと思うこのごろです。精神面でどれだけ寮生さんが心を開いてくれるか、それ以前に私が寮生さんにどれだけ心開くことができるかということが私にとっての大きなキーポイントです。

私は子どものころ知恵おくれの人たちに偏見を持っていました。通りがかりに見ることしかなったこの人たちに何か危害を加えられそうな恐怖を抱いていたからです。けれど初めて施設の実習に行った時、その人たちと一緒にすごした時間の中でそれが誤りであることを感じずにはいられませんでした。表現の仕方は言葉ではないものの自分をとりつくろったり飾り気のない分だけ人間的だと感じました。そんな思いがここで働くことのできるきっかけを作ってくれたのだと思います。

ここでの生活は、いろんな面で自分を成長させてくれそうです。寮生さんの前に立つ時、自分の姿がよく見え、考えさせられることばかりです。マイペースでやっていこうと思っています。



「自分について」

A棟指導員
中尾　雅則

大阪の関西社会福祉専門学校を卒業し、特別養護老人ホームで一年間、おじいさん・おばあさんと一緒に生活をしていました。

特別養護老人ホームでの仕事内容は、オムツ交換・離床介助・排泄入浴介助・食事介助など介助する事が多い為か、あまりおじいさん、おばあさんとコミュニケーションを取る事が出来なかったけれども、相談に乗ってくれるおばあさんや自分がまだ生まれていない時代、戦争中での出来事を話してくれるおじいさん、とてもかわいくて、しょうがない、おじいさん、おばあさん達がおられた老人ホーム、とても楽しかったし老人の人と接して、大分年上の友達が出来て幸せな一年間を過ごさせてもらいました。でも、いろいろな事情で、落穂寮にお世話になりました。毎日、とまどいや、考える事が多く、先輩達に迷惑をかける事が多く、まだ、足が地についていない心境です。早く自分の事を知ってもらう為に、長所・短所を上げたいと思います。

長所　明るい所・素直

短所　八方美人・どんくさい・心配性・人の意見に左右される・寂しがりや・バカ正直・けっこうあきらめが早く、おっちょこちょい

こんな自分ですが、自分なりにがんばります。これからもよろしくお願いします。

「さっちゃん」に会った？

山下　陽一

ある幼稚園でのことです。さっちゃんは、ままごと遊びのおかあさんになることにとてもあこがれていました。けさの幼稚園で「きょうのおかあさんは誰ですか」と先生がいったとき、さっちゃんは「わたしおかあさんになる」と元気よくいいました。するといつもおかあさん役をしているまりちゃんはまっかな顔をしていいました。「さっちゃんはおかあさんになれないよ！だって、手のないおかあさんなんてへんだもん。」

さっちゃんは、「あたしだっておかあさんになれるよ！」といってまりちゃんにエプロンを投げつけて靴もはきかえないで幼稚園を飛び出しました。

お話はまだ後に続いているのですが、これは偕成社出版の「さっちゃんのまほうのて」です。初版以来七年間に五十一回も増刷されているので、たいへん人気のある絵本なのでしょう。

さっちゃんはまりちゃんに「おかあさんになれないよ、手のないおかあさんなんてへんだもん」といわれるまでは自分の手をそんなに気にしなくて過ごしてきたのでしょう。しかし、この時自分の指のない手に向き合ったとき、幼い透明な心にかかえ込むにはあまりに大きすぎる衝撃を受けた姿を見ると、私は胸の奥を揺られるような感動を覚えるのです。

さっちゃんは、「こんなていやだ」と唇をキリッと結んでお母さんを見上げる目に涙がいっぱいです。おかあさんもやっぱり涙であふれた目でさっちゃんを見つめていることでしょう。さっちゃんの手はおかあさんがどうしてやることもできないのです。そんなとき、お母さんはさっちゃんをぎゅっと抱きしめることしかできなかったに違いありません。幼い目がしゃくりあげながら自分のからだについてたずねている姿の前になすすべを知らないのです。

やがてさっちゃんには弟が生まれました。病院にお母さんを見舞った帰り道、さっちゃんはお父さんにぽつんといいました。「おとうさん、さっちゃんもおかあさんになれるかな」おとうさんは「なれるさ、さちこと手をつないであるいているとふしぎな力が伝ってくる。さちこの手はまるでまほうの手だね。」

さっちゃんはやがて元気になり、自信を持ったまなざしを取り戻します。この生命力あふれるさっちゃんの姿に、私達は何かに見覚めさせられる気がし、近ごろあまり感じないまぶしいいのちのいぶきを感じさせられました。

「さっちゃんのまほうのて」
たばたせいいち
先天性四肢障害児父母の会
のべ　あきこ
しざわ　さよこ
共同制作
偕成社（一、二〇〇円）

社会福祉法人 椎の木会の評議員会再設置のこと

昨年九月に社会福祉事業法の一部改正がありました。短期療育事業や精神薄弱者地域生活援助事業（グループホームのことです。）が第二種社会福祉事業として位置づけられました。椎の木会としては短期療育事業を落穂寮で実施、グループホームは今津町杉山で杉山ホームを、石部町東寺二一七の二でしいのきホームを設置運営しています。つまり第二種社会福祉事業を実施している法人ということになります。事業法の改正によると第二種社会福祉事業を実施している法人にあっては、必ず評議員会を設けなければならない、とされています。平成三年度の県主管課による事務指導監査においても県当局より評議員会を設けることとの指摘がありました。平成二年一月にいったんは廃止した評議員会ですが、法改正により再設置することとなり、本年度五月より人選作業をすすめて九月期の理事会にて選任されました。当然、定款変更申請（滋賀県知事の認可事項）をすませており、まもなく認可がおりる予定です。第二種社会福祉事業に関連しての評議員会設置ということもあり、評議員人選にあたっては地元代表の方、地域代表の方、職員代表と諸々の方面より選任されました。落穂寮と同じ町内会よりと、職員代表ということで、副寮長の中嶋貴一郎、栄養士の秋岡迪子、事務長の橋本浩明と選任されました。今後、理事会ともども評議員会活動についてのご支援ご協力の程お願い申し上げます。

事務長　橋本浩明

落穂寮年間行事予定

四月―お花見遠足・ブロック展
五月―氏神まつり・開寮記念会・杉山まつり・杉山ホダ木搬入等
六月―短期帰省（一週間）プール開き・各クラス外出
七月―七夕会・臨海学舎（二泊三日、小浜市田烏谷及浜）
八月―夏期帰省（二週間）納涼祭　滋賀愛護体育大会　土と色展（京都市美術館）
九月―お月見会・年長児旅行（北海道へ）クラス外出　スペシャルスポーツカーニバル（希望ケ丘公園にて）
十月―親子合同運動会（十日）あふれる希望の美術展　京滋レクリエーション大会（各年毎に年少・年長）各クラス外出
十一月―秋期帰省（一週間）年少児旅行（神戸方面）滋賀愛護マラソン外出・同窓会
十二月―クリスマスパーティー　冬期帰省（二週間）　忘年会（各棟単位で）
一月―成人式出席　新年会（各棟単位で）
二月―石部地区合同マラソン会　節分・スキー教室（各棟）
三月―ひなまつり・卒業祝賀会　学習発表会（各棟発表）　春期帰省（二週間）　次年度編成会議

以上の他、職員研修会、親、職員合同の研修会等が予定されています。（十一月まではすんだものです）

泉

▼平成四年度より、寮長・副寮長・事務長という編成でうごきだして早、七ケ月がすぎました。各々その肩書に戸惑いながらも今日まできました。今後とも落穂寮の子供達職員への暖いご支援、ご協力の程お願いいたします。

▼一学期のあいだに保母二名が退職しました。四月に体調を崩した人、家庭の事情でという人。これからというときだっただけに残念でしたが、各々の道を歩まれることを願っています。

▼年々、福祉の道にすすもうという人が少なくなってきているようです。金銭的なことではなく、とりまく環境的なことが主たる原因のようです。福祉関係全体の施策抜本改革が必要と考えます。

▼六月から一人病院に入院、手術。この十一月も一人入院、手術の予定です。今後もこのようなケースが増えてくるのでは、という予感あり。付添人の体制整備を。

▼諸々のことから、人が育つ環境づくりが大切と痛感。それにはまず福祉に気を向けてもらうようにしなければと考えます。福祉に関係する情報は氾濫しているのですが…。気はなかなか向けられていないのが現状です。